

武蔵野市第四期基本構想・長期計画策定委員会（第9回） 会議要録

日 時：平成16年1月27日（火） 午後7時～9時20分

場 所：武蔵野公会堂第1・2会議室

出席者：東原委員長・小木副委員長・鶴川委員・廣瀬委員
増山委員・村田委員・古田土委員・永並委員
企画政策室長・企画調整課長・財政課長ほか

1 開 会

2 議 事

（1）討議要綱について

討議要綱案について討議を行った。

【委員長】「第三期長期計画の実績と評価」「第二次調整計画の実績と評価」「市政を取り巻く環境の変化」「分野別検討課題」について意見をいただきたい。

【委員】年度別に実績を表として並べることはできないか。

【事務局】実績評価については、一覧表を別冊として配布する。ここでの実績と評価は、第2回の委員会で配布した「計画実施状況」を文章化したものだ。

【委員】実施したものの中でも重要性や必要性の度合いが異なる。

【委員長】「実績と評価」については、このような内容で差し支えないと思う。順番としてはどうなるか。

【事務局】「第三期長期計画の実績と評価」「市政を取り巻く環境の変化」「第二次調整計画の実績と評価」「分野別検討課題」の順だが、「分野別検討課題」の前に「基本的な考え方」が入る。

【委員長】それでよい。つまり、現状認識が入り、過去の実績とレビューが入り、考え方を示し、分野別検討課題となる。「第三期長期計画の実績と評価」について気がついた点はあるか。

【委員】ひとつの項目の中でも、この部分は達成したが、この部分はまだというふうに分けて示すことは可能か。

【事務局】別冊の一覧表で示したい。

【委員長】12年間のことなので状況の変化もあり、どうしても抽象的になる。討議要綱案について指摘したい事項だが、市民にアピールしていくためには具体的な言葉で示して欲しい。また、市長の使った言葉を転用している部分もあるが、そのままでなくアレンジしてもよい。

【委員】「第三期長期計画の実績と評価」「第二次調整計画の実績と評価」はダブった記載が目立つが整理したほうがよいのではないか。

【委員長】多少ダブることは構わない。なぜならば、討議要綱を読む一般の市民は照合しながら読み進めるわけではなく、文章が自然の流れであるほうがよい。文章についてだが、二つの事柄を一つの文章に詰め込む例が多いが、文章はできるだけ短くしていくほうが良い。

【委員】内容のダブリがやはり気になる。市民が読むことを考えると全体としてもっと短くてよいのではないか。

【委員】並べたことに意味があり、いくら同じことが書いてあっても、その並びで評価する人もいるのではないか。

【委員長】重複に関しては、どれも1回しか出てこないような表現だとかえって読む人が大変だ。ほどほどのバランスが取れていればよい。

分野ごとに委員からの提案における「考え方」の検討を行った。

< 健康・福祉 >

【委員長】引き続き「考え方」について討議を行う。各委員より説明を求めたい。

【委員】「市民パートナーシップ・福祉力・高齢化」を全部絡めて、地域のボランティア意欲を高めることが、福祉力を高める方向性だとしてまとめた。

【委員長】これはこれでよいが、さらにプラスして、内容、論点は何か加わるか。策定委員会としてどのようなメッセージを出していくかだ。

【委員】介護を要するに至るまでの予防や健康の増進などは、すでに市としても一生懸命行っている。そういう面へのさらに積極的な関与も含め、市民の力とかかわっていくことはよい方向性と思う。

【委員長】サービスの質、その評価という問題もある。事業計画のメニューは出てきているのでその中で取捨選択し、重要性の順位付けをすることが我々の本質的な作業だ。そのためにも、いま基本的考え方を出していかなければならない。

< 市民生活 >

【委員】男女共同参画については、条例化まで書き込むかは、調整していかなければいけないことだ。

【委員長】条例という言葉を出しするより、中身として何を盛り込むかを議論する方がよいかとは思う。

【委員】本来の議論としてはまず条例化ということだ。

【委員長】それならば、もう少し問題提起としての書き方でよいのではないか。その場合だが、具体的施策はどのようなものを考えているのか。

【委員】行政でできることには限りがあり、枠組み作りということとなると思う。

【委員長】この件については委員会の総意として最終的に出せるものかを、議論すべきだ。

< 環境 > < 都市基盤 >

【委員】担当分野では、吉祥寺、武蔵境、環境の持続性が重点課題として出ているが、すべて論点に入れていくと、かなり増えてしまう。

【委員長】キーワードとしてどのようなものがあるか。

【委員】持続可能性、景観、安全安心なまちづくりなどだ。

【委員長】吉祥寺と武蔵境の共通する部分、前提となるものの考え方による切り分けはできる。吉祥寺の論点は何か。

【委員】吉祥寺グランドデザイン委員会が立ち上がるが、エリア別の整備が将来的にどうなるかということだ。また、吉祥寺のキャパシティをどう考えるかということもある。

【委員長】それは論点だ。前提となる考え方があれば出していかなければならない。グランドデザインという言葉の中身についてだが、グランドデザインの名のもとに、どういう政策を行うかはどこかで言っていかなければならない。武蔵野市の吉祥寺グランドデザインというものは、基本的にこういう方向性を持っているということは書けるのではないか。

【委員】吉祥寺グランドデザインについてはこれから市民に協議していただくものであり、委員会の立上げにも至っていない。個々の事業計画はあるが、グランドデザインの内容まで示せるものではない。

【委員長】グランドデザインという概念は吉祥寺だけに限るものではなく一般的なものだ。それ自体を書くことはできるのではないか。

【事務局】検討すべき大枠の方向として一般的なものはある。例えば、美しいまち、ユニバーサルデザイン、安全安心といったことは提示できるかと思う。

【委員長】いまの時点では一般論でよい。

< 行・財政 >

【委員】計画の視点だが、前回の提案に追加したことは、規制緩和と競争原理の導入、組織の成長と個人の成長だ。また、受益者負担の適正化を追加した。受益者負担を考える場合に、全体のコストと、経済的な利益をだれが受けているのか、地域なのか、利用者なのか。そういった情報を出し、コスト負担の方向を、住民の合意のもとに考えていく。そのような方向をとってはどうかということを書いている。また、国民健康保険、介護保険等の保険料の負担のあり

方について見直すべきではないかということを書いた。それと使用料・手数料の見直しだ。人事制度としては、職員定数を人口当たり何人にするか削減目標を考えたかどうか、新しい人事制度の計画書に基づき具体的にどういった事業をやるかという戦略プランの策定をするということ、全職員に対する目標管理制度の適用、研修プランの作成などを挙げた。最後に議会改革を入れた。具体的には議会の土日・夜間の開催と議員定数の適正化として人口当たりの指標を考えたかどうかということも挙げた。

【委員長】他の委員から意見はあるか。

【委員】議会改革についてだが、実際に夜間や土日の議会開催を望んでいる人はいるか。

【委員】現在のような平日昼の開催では一般の人はどのような議論をしているのかわからない。情報公開、市民参加という意味でも必要だ。

【委員】基本的にはよい案だ。土曜学校に位置づければ、子どもたちが社会の仕組みに目を向けるきっかけともなり、よい実体験となる。

【委員長】方向性としては結構だが、委員の提案のままでは詳細すぎる。重要なものだけを本文の中に入れていくように凝縮していく必要がある。

【事務局】方向性は事業計画案等とも一致しており、計画案に盛り込んでいく形でよいかと思う。そのほか事業計画案に含まれていない要素については策定委員会で議論していただきたい。

【委員】規制緩和についてだが、どこまで公がやっていくかということについて何か考えを出すのか。効率的にやるのならば市がやるのが一番だという考え方もある。

【委員】ムーバスは市自ら規制緩和をして、住民のニーズを掘り起こしコミュニティベンチャーを起こした成功例だ。

【委員】セカンドスクールもそうだ。また、市自体も規制を行う立場でもある。余計なことをせずに税金を最少にしろという考え方も規制緩和の一つだ。

【委員長】武蔵野市はむしろ関与を強めている傾向にあるのではないか。虐待防止も大変な関与だ。規制緩和といった言葉では片付けられない。トップマネジメントについてコメントすべきかという問題もある。市民の立場として、市長としてのリーダーシップに何かコメントすべきかどうかと思っている。もう1点、持続可能性の中での今後の財政運営がある。10年位前の中財懇で、基本的に事業はサンセット方式で行くべきとあるが、スクラップは本当に至難のわざだ。既得権の見直しは、再び浮かび上がらせたいと思う。